



「 令和5年の終わりに 」

校長 中野 瑞枝

半袖で過ごせる日があった先週ですが今週に入ってから、急に師走らしい冷え込みとなりました。例年ですと、進路面談のある12月上旬あたりから冷え込み緊張するものですが、気候が伴わず、2学期の終業式を近くして、単元テストを受けていた3年生の廊下は、冷え込みと緊張でピリッとした空気が漂っていました。令和5年も残すところ10日足らずとなりました。4月からを振り返り保護者と地域の皆様のご協力のおかげで無事に一年を終えようとしていることに心から感謝しております。

先日行われた生徒会役員選挙で次期生徒会長をはじめ本部役員が決まりました。これまで頑張ってくれた3年生に代わって、現2年生との世代交代をする引継ぎの時が、もうすぐそこに来ています。そして、この時期は3年生にとっては、いよいよ受験に向かう時となり、不安を感じたり辛くなったりすることがある時です。心のうちは、人それぞれかと思いますが、全国の中学3年生徒のほとんどが、同じ思いをしているのだと思います。中学校の卒業(義務教育の終了)を目の前にして、その先は、自分の道を選んで進むことになり、進路に自動扉はありません。自分の扉を開くのは、自分ですが、決して一人ではありません。家族や先生も一緒です。辛い時は、一人で悩まずに先生や身近な人に話してみてください。季節は巡り冬の次には必ず、春がやってきます。どうぞ、健康を大切に頑張ってください。

さて、今年の5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に移行して行動の制限や様々な規制がなくなり通常生活に戻りました。音楽祭こそは、延期となりましたが、これまでの学校行事を再開することができました。夏祭りやふれあいフェスタなどの地域連携も復活して、生徒も多数参加させていただきありがとうございました。また、部活動をはじめ、クラブや外部団体で活躍する生徒の姿もみられ、特に、学校内では、生徒会を中心とした「標準服登校とジャージ着用についての検討」は、地域の方のご意見も聞きながら熱心に議論し、生徒が自分たちで着用のルールやモラルを確認して進めるなど、生徒の頑張っている様子に感心し、学校生活を自分たちの発信で考えてより良いものにしていくとする姿に頼もしさを感じました。

今年は、コロナによる影響の経験を超えて4年ぶりに通常に戻った1年目。5～6年前と比べれば世界や社会の情勢も大きく変わり、今では、子どもたちの10年後の姿を見据えて育成する能力や備えたい力も変わっています。学校に求められていることも変わっていますが、「学校の主体は生徒」であり「地域の学校」という考えは変わりません。私も校長として異動初年度で慣れない面もあり気遣いできなかった点もあったかと思いますが、子どもたちの未来・将来のために中学時代にできることを大切にして保護者、地域の皆様と共にできることに取り組んでいきたいと思っています。

3学期は、今年度のまとめと次年度の準備の時です。今年度の振り返りを土台にして小田中学校生徒の成長を図るために準備を行っていきます。来年もどうぞよろしくお願いいたします。